

天候不順に対する農作物の技術対策について

令和4年6月2日
農業技術課

1 気象概況

気象庁によると、関東甲信地方で気温がかなり高い日が続いていますが、今後は気圧の谷や冷たく湿った空気の影響を受けやすくなるため、気温は平年並か低く、6月5日頃からかなり低くなる可能性があります。

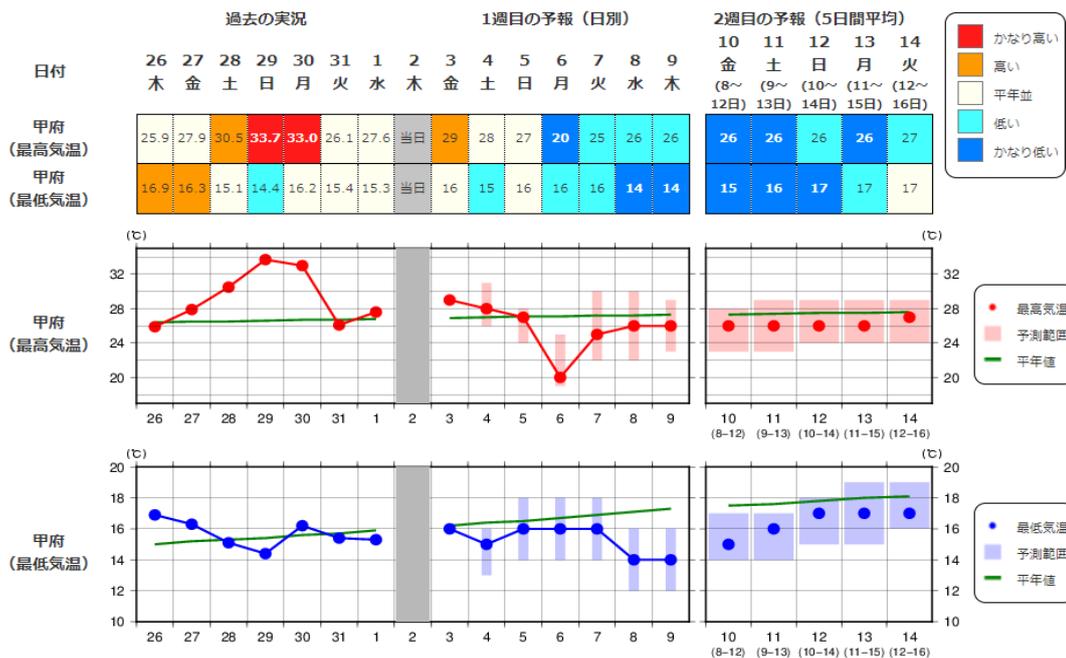
予報では、気温の変動が大きい見込みとなっていますので、農作物の管理等には注意してください。また、今後の気象情報等に留意してください。

※低温に関する早期天候情報（関東甲信地方）令和4年5月30日14時30分発表

<週間予報 6月2日 11時発表>

山梨県の天気予報（7日先まで）									
2022年06月02日11時 甲府地方気象台 発表									
日付	今日 02日(木)	明日 03日(金)	明後日 04日(土)	05日(日)	06日(月)	07日(火)	08日(水)	09日(木)	
山梨県	晴時々曇 	曇時々晴 	晴時々曇 	曇時々晴 	曇一時雨 	曇一時雨 	曇 	曇時々晴 	
降水確率(%)	-/-/30/30	10/10/30/30	30	40	60	50	30	30	
信頼度	-	-	-	C	B	C	B	A	
甲府 気温 (°C)	最高	29	29	28 (26~31)	27 (24~28)	20 (19~25)	25 (22~30)	26 (22~30)	26 (23~29)
	最低	-	16	15 (13~16)	16 (14~18)	16 (14~18)	16 (14~18)	14 (12~16)	14 (12~16)
向こう一週間（明日から7日先まで）の平年値									
降水量の7日間合計				最低気温		最高気温			
甲府	平年並 8-24mm				16.7°C		27.1°C		

<この先の気温予報（2週間気温予報：甲府 6月2日 14時30分発表）>



2 技術対策

果樹

<露地果樹>

- ・病害の発生が心配されるので、気象の推移に注意し、防除暦を参考に防除間隔が空かないよう、慣行防除を徹底する。
- ・曇雨天により低温が続いて生育が遅れる場合は、生育ステージに合わせて散布間隔が空くため、前回の散布からの日数を優先して薬剤散布を行う。
- ・散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を延期せず、降雨前に散布する。
- ・連続的な降雨や強い雨が降った場合は、薬剤の残効が低下しやすいので、散布間隔を短くする。
- ・雨の晴れ間に薬剤散布する場合、葉が濡れているときは、SSの送風ファンなどで露を払ってから散布を行う。

<ブドウ>

- ・べと病や灰色かび病、黒とう病などの発生が心配されるので、防除を徹底する。
- ・べと病の発生初期には、ジャストフィットフロアブル5, 000倍（収穫前30日前まで、3回以内）を散布する。ジャストフィットフロアブルは、周辺に立木類がある場合は、飛散に注意する。耐性菌の発生を防ぐため連用は避け、年一回の使用とする。
- ・開花期を迎えている園では、灰色かび病やサビ果防止のため、花カスの除去や薬剤散布を徹底する。
- ・晩腐病防除のため、第1回ジベレリン処理後に、ロウ引きのカサを掛けるとともに、摘粒が遅れる場合は、先にカサをかける。防除暦やブドウ晩腐病防除マニュアルを参考に、落花直後と果実の大きさが小豆大頃に、ペンコゼブ水和剤またはジマンダイセン水和剤1, 000倍（収穫45日前まで、2回以内）を散布する。また、天候不順により防除やカサ掛け、袋掛けなどの作業が遅れる場合は、薬剤による果粒の汚染に注意しながら、セイビアーフロアブル20 2, 000倍（収穫21日前まで、3回以内）を散布する。

<モモ>

- ・せん孔細菌病や黒星病の重点防除時期であるため、モモせん孔細菌病防除マニュアルに従い防除を徹底する。
- ・薬剤散布後は、できるだけ期間を開けずに袋をかける。
- ・せん孔細菌病の発生園では、新梢の病斑や発病果は見つけしだい取り除き、園外に持ち出す。薬剤防除として、マイコシールド1, 500倍（収穫21日前まで、5回以内）を散布する。散布する際は、収穫前日数と総使用回数には注意する。ウメ、オウトウでは残留基準値が極めて低いため、隣接園では使用しない。

<施設果樹>

- ・気温が低い場合は、生育遅延の防止や果粒肥大のため、ビニールの開閉や加温により昼夜温の確保に努める。また、急激な気温上昇に注意し、高温障害（ブドウの着色不良、オウトウのウルミ果やモモのフケ果など）対策のため、換気やかん水等の管理を徹底する。

野菜

<露地野菜>

- ・ほ場が滞水しないように、排水路を設けるなど排水対策を徹底する。
- ・肥料切れによる樹勢の低下を防止するため、スイートコーンでは葉色、ナスでは花柱の長さ、花色、葉色をみながら追肥する。

<施設野菜>

- ・病害の発生を予防するため、施設内が過湿にならないよう、日中25～28℃前後を目標に換気する。
- ・灰色かび病、疫病、斑点細菌病などの病害の防除を徹底する。

花き

- ・日中のハウス内温度上昇と多湿による灰色かび病等が発生しやすいために、こまめなハウス内換気に努めるとともに、かん水量を控えるようにする。
- ・洋らん類では、曇天時には遮光を控え日射量の確保に努める。また、曇天後の晴天による急激な日射量の増大による日焼けが懸念されるため日射量の調節に努める。